



# スキマタイムズ



もっとお互いを理解するための場や時間を



✿日本自立生活センター自立支援事業所 2024年10月28日発行 第163号

## 生存権を求める京都デモ 2024 報告



10月13日、生存権を求める京都デモ2024を行いました。昨年SNSで「炎上」した「たまにはウナギも食べたいぞ！」のコールのほかに、今年は「カニも食べたい」(たまには、です)も加わりました。たくさん用意したのぼり旗は良く目立ち、デモ隊は晴れ渡る空の下、河原町通を南下し多くの沿道の人々にアピールができました。

JCILの小松さん、山崎さんらが生活保護の引き下げに反対する運動を始めてから10年が経ちました。2013年からの生活保護の過去最大規模の引き下げは、厚労省が当時の政権に忖度して根拠とする数字を捻じ曲げ、専門家の意見を聞く過程を無視して強行しました。全国30の裁判所で提訴された裁判は、当初原告の敗訴が続きましたが、徐々に引き下げの根拠がでたらめであることが認知され、また各地裁での「コピペ判決」(他の判決文をそのまま引用する)が相次いで発覚するなどの問題も起き、次第に潮目が変わってきました。現在までに原告が18勝と行政訴訟では過去に例のない状況となっています。

生活保護は市民の生活を下支えする「いのちのとりで」です。就学援助、最低賃金、公営住宅家賃の減免、など様々な制度に連動し、利用していない人たちにも無関係ではありません。引き下げは、日本の貧困ラインの引き下げにつながるのです。コロナ禍を経て物価高が続いており生活に困窮する人は増えていますが、生活保護の利用は増えていません。それは、政府・メディア主導の「生活保護バッシング」によるネガティブイメージの定着や、扶養照会の強要など申請をためらわせる窓口対応などによるものです。生活保護が利用できる貧困層の3割しか制度を利用しておらず、この「捕捉率」の低さは先進国の中でも際立っています。生活保護基準を元に戻し、困った人が普通に利用できる制度にしていくために私たちは活動を続けます。(実行委員：脇坂)

小松 満雄さんコメント (実行委員)

デモの日はたまたまよい天気が続いています。毎年晴れて暑いです。今年も実行委を立ち上げて準備をしてきました。僕は国に声が届いているか分からないけどやっています。一人でも多くの市民が国に対して声を上げてほしいと思って、やっています。来年もやりたいと思っています。国が生活保護の引き下げをやめるまでやりたいと思っています。皆さん、協力してください！特に生活保護を利用している人に協力してほしいと思っています。

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：岡山・春木

TEL：075-682-7950 E-mail：jcil-kyoto@jcil.jp URL <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

# 楽しかった♪おいしかった！ 合同 BBQ&交流会

以前にお知らせを同封させていただいた、「車いすと仲間の会」と事業所のレクリエーションチーム合同のBBQ企画を10月5日に中央市場内にあるBBQコート339にて実施しました。コロナ禍以降、車いすと仲間の会では、キャンプなどのイベントを中止していたので、実に5年ぶりのイベントでした。3か月前から企画について話し合いを重ねて準備し、会員の方に参加を呼びかけました。



当日は晴天にも恵まれて、車いすと仲間の会やJCILメンバー、施設からの参加者など44名の方に参加していただきました。今回、初めて参加される方や初対面の方もいたのですが、みんな開放的で和やかな雰囲気の中で、楽しんでいたのが印象的でした。

また、BBQ後の交流会は梅小路公園でまったりと自己紹介やじゃんけん大会をして過ごしました。本当に久しぶりの集まる機会だったので、とても感慨深かったです。

次に企画を実施するときにはもっと施設の方が参加しやすいような工夫をしたいと思っています。みなさまも、ぜひご参加ください。  
(下林慶史)



## ～アロマオイルで ハンドケア～

11/13(水) 14:30-16:00

アロマオイルを使ったハンドマッサージは、ただ心地よいだけでなく、香りをおくことで良い気分転換にも。マッサージをしてもらいつつおしゃべりしながら、ゆったりとリラックスするひとときをすごしてみてください。(担当：沖田)

- \* 場所：油小路事務所
  - \* 持ち物：バスタオル1枚
  - \* 参加費：無料
  - \* 定員：先着6名
- 11/11(月)までに届いた申込みメールから先着順。
- \* 申込先：事業所メールアドレス  
jcil-kyoto@jcil.jp宛  
件名：ハンドケア申込み  
でお申込みください。



## 「社会モデルで考える」ためのレッスン」に参加して

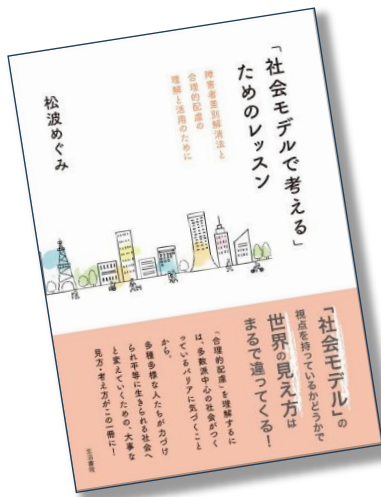
油田 優衣

今回のスキマ勉強会（9月24日火曜日開催）では、今年の7月に『「社会モデルで考える」ためのレッスン：障害者差別解消法と合理的配慮の理解と活用のために』を出版された松波めぐみさんにお話をいただきました。

「合理的配慮」という言葉は、今年度から民間事業者にもその提供が義務化され、少しずつ世間にも知られてきている言葉ですが、まだまだ世間では、障害者への「思いやり」や「特別扱い」、「恩恵」といった意味で誤って理解されることがしばしば。松波さんは、合理的配慮を理解するには、まず社会モデルの考え方をつかむことが非常に大切と言います。松波さんの言葉を借りて説明すると、社会モデルとは、障害のある人が困難に遭遇するのは、本人の心身の機能障害のせいではなく、社会が健常者中心にできているためにバリア（社会的障壁）があるからだと捉える考え方。その視点は必然的に、障害のない人が考えずに済んできた「健常者中心の社会」のあり方を考えることにつながります。この考え方をもとに理解すれば、「合理的配慮」とは、そもそも排除的であった社会の環境を変更・調整し、より平等なものに変えていく手段の一つなのです。今回の学習会では、「社会モデル」や「合理的配慮」の考え方のエッセンスについて、とてもわかりやすくお話いただきました。

その他にも、松波さんのお話のなかで面白かったのは、2008年からの京都府の条例づくりの運動の話です。話のなかにはJCILのメンバーの名前もしばしば登場し、JCILの運動の歴史も少し知ることができました。

最後に、私からも松波さんの本の宣伝を。社会モデルの考え方はなんとなく知ってるよ（障害は社会との間にある、社会が作っている、みたいな考え方だよ）という方は少なくないと思います。しかし、では、「社会モデルで考える」とは一体どういうことなのか、そこまでを掴めている人はまだまだ少ないと思います。松波さんのこの本は、「社会モデル」で見ることが世界の見方をどう変え、自分をどう変えるのか、それがとてもわかりやすい文章で、すーっと、ふかーく、からだに入ってきます。障害やその他のマイノリティに関わりがある人には必読の本ですし、障害当事者にとっても自らをエンパワメントしてくれる本です、まだお読みでない方はぜひ読んでみてください！



# 第20回 卓球バレー

★日時：11月5日(火)13:00~16:00  
★スタジアム：多文化交流ネットワークサロン

野瀬かんとく？インタビュー

> 京都卓球バレー協会が主催している大会などにも参加されていると聞きました。今まで出場した回数は？

野瀬) 3大会に出場しましたがまだゼロ勝です……

> 敗因は？

野瀬) 選手不足のためチームの維持でギリギリというところでしょうか。

> 毎月の卓球バレーは定着してきたのでは？

野瀬) 多文化での卓球バレーは最近盛り上がっています。

> 選手不足解消に向けてなにか策は

野瀬) もっとみんなに関心を持ってもらう必要があります。「やってみたら意外と面白い」と言ってもらえるので駐車場で「青空卓球バレー」をしてみたいです。

> なかなか勝てないということで監督交代の話も出ているようですが……

野瀬) 初勝利に向けてがんばりますので、みなさんの参加をお待ちしています。

> 今月お亡くなりになられた河野さんも毎回大会に参加されておられたそうですね。

野瀬) 亡くなられてからアルバムを見させて頂くと、昔に卓球バレーをされてる写真が幾つもありました。僕は空白の時間を除くと卓球バレー歴は15年程ですが、恐らく河野さんはそれ以上だったのかなと思うのもっと助言を頂けば良かったと後悔しています。



↑2024年3月の大会の時の河野さん



## 職員自己紹介

- ① なまえ
- ② JCIL との関わりはいつから？
- ③ きっかけは？
- ④ どんな仕事をしていますか？
- ⑤ 大切にしていること・これからしたいこと



- ① 塚本 晴美 (つかもと はるみ)
- ② 2022年5月からお世話になっています。
- ③ 以前は、主に知的障害を持つ方達を支援する事業所に勤めていました。ある日、ふと見たTVに、昔お世話になった方の息子さんが画面に大きく出てびっくり！(バリバラです^\_^) 立派な青年になった彼が、楽しく自立生活をしている様子を見て感動すると同時に「障害があっても自分らしい暮らしがしたい」と望む方の支援をしたいという気持ちが湧き上がり、JCILの扉を叩きました。
- ④ 介助のお仕事、そして只今コーディネーターの勉強中です。
- ⑤ 大切にしていること：心ほっこり、安心してもらえる介助を心掛けたいと思っています。  
これからしたいこと：これからも利用者さんと共に、元気に明るく楽しく過ごしていきたいです。